関西国際大学 卒業生追跡調査 結果

	① 大学での学修と卒業後のキャリア形成の関係性									
 実施目的	② 卒業生との関係性持続									
天心日 的	③ 卒業生からの企業情報獲得									
	④ 早期退職軽減									
	① 卒業後3年目の全学部卒業生約343名									
	(2015年9月、2016年3月卒業生)									
調査対象	離職から見る進路先とのマッチング分析もあり卒業後3年を対									
	象としている									
	② 当該年度進路先企業等約 189 社									
調査方法	記名式(任意)·郵送回答									
調査時期	2020 年 2 月									
回山本	①卒業生:9.6%									
回収率	②企業等進路先:43.4%									
	① キャリア支援センター並びキャリア委員会において経年変									
集計結果の分析	化傾向分析									
	② 学部学科毎の離職分野の傾向分析									
	① 就職指導において業種、進路先名も含めた具体的な指導									
調査の活用	に活用									
	② 教員による入職現場での業務分析									
	② 教員による入職現場での業務分析									

<回答者の基本情報:進路先企業等>

	企業	公務員	福祉	総計
兵庫県	33	2	1	36
大阪府	18	1		19
その他	24		3	27
総計	75	3	4	82

<回答者の基本情報:卒業生>

	正社員	契約社員•職員	派遣社員·職員	アルバイト
教育学部 英語教育学科	1			
教育学部 教育福祉学科 こども学専攻	13	3		1
教育学部 教育福祉学科 福祉学専攻	2			
人間科学部 経営学科				
人間科学部 人間心理学科	10	1	1	1
総計	26	4	1	2

就職先」追跡アンケート①選考で重視される項目(回答数82)

	人柄	会社への熱意	可能性	コミュカ	性格検査	能力検査	大学名	学部・学科名	専門性	取得資格	語学力	PCスキル	海外経験	インターンシップ	アルバイト	クラブ経験
サービス業(その他のサービス業)	2	2		2												
その他の専門・技術サービス業	1	1		1												
その他教育、学習支援業																
医療業、保健衛生																
運輸業、郵便業	1	1	1													
卸売業	6	4		6												1
学校教育	8	4	1	4					2	1						
金融業	1	1		1												
建設業	2	1		1	1	1			1						1	
公務(国家公務)	1	1	1													
公務(地方公務)	5	4	1	2	1				1	1						
社会保険·社会福祉·介護事業	24	7	16	22		1			1	4						1
宿泊、飲食サービス業																
小売業	12	6	5	10											2	
情報通信業																
生活関連サービス、娯楽業	6	3	2	5	1											
製造(はん用・生産用・業務用機械器具)	1	1		1												
製造(電気・情報通信機械器具)																
製造(輸送用機械器具)																
製造業(その他)																
製造業(化学工業、石油石炭製品)	1		1	1												
製造業(食料品・飲料・たばこ・飼料)	2	2	1	1												
製造業(鉄鋼業、非鉄金属・金属製品)	1	1		1												
電気・ガス・熱供給・水道業																
農業、林業																
不動産取引·賃貸·管理業	2	2	1	3		1										
複合サービス事業																
物品賃貸業	3	2	1	2		1										
保険業	1		1	1												
総計	80	43	32	64	3	4			5	6					3	2

企業①採用選考で重視される項目について

本学の卒業生の就職先において、採用選考で何が重視されているかを問うたもの。選択肢として設定した 16 項目 のうち、業種を問わず 4 項目に回答が集中した。特に「人柄」「コミュニケーション能力」について重視していると回答 した進路先は、回答数の 7 割以上を占めており、前年度と状況は変わっていない。現代における新卒採用が「人物 重視」であることを裏付ける結果となった。また「会社への熱意」を挙げる進路先も多い。コロナ禍において採用期間 が短期化する傾向もあり、就職サポートにおいて、企業研究を更に重視させたいと考える。

就職先 追跡アンケート② 社会人基礎力のうち貴社で求められる能力(回答数82)

	主体性	働きかけカ	実行力	課題発見力	計画力	想像性	発信力	傾聴力	柔 軟 性	状況把握力	規 律 性	ストレス耐性
サービス業(その他のサービス業)	1		1					2	1		1	
その他の専門・技術サービス業			1						1			1
その他教育、学習支援業												
医療業、保健衛生												
運輸業、郵便業			1		1					1		
卸売業	5	1	4					2	3	1	2	
学校教育	5		2	1	2	2		2	6	2		2
金融業	1		1								1	
建設業	1	1	2						1			1
公務(国家公務)	1										1	1
公務(地方公務)	3		4	1		1			2	1	3	
社会保険·社会福祉·介護事業	15	1	7	5	1	7	4	8	14	4	7	2
宿泊、飲食サービス業												
小売業	8	2	6	3			2	4	4	3	3	
情報通信業												
生活関連サービス、娯楽業	2		4	2		1	1	4	3	1		
製造(はん用・生産用・業務用機械器具)			1			1					1	
製造(電気·情報通信機械器具)												
製造(輸送用機械器具)												
製造業(その他)												
製造業(化学工業、石油石炭製品)					1				1		1	
製造業(食料品・飲料・たばこ・飼料)	2		2	1							1	
製造業(鉄鋼業、非鉄金属・金属製品)	1			1					1			
電気・ガス・熱供給・水道業												
農業、林業												
不動産取引・賃貸・管理業	2		3				1	1		1	1	
複合サービス事業												
物品賃貸業	1		2	1	1	1		2		1		
保険業			1					1	1			
総計	48	5	42	15	6	13	8	26	38	15	22	7

企業②_現在の勤務先での悩みについて

社会人基礎力として設定された 12 項目のうち、本学卒業生の就職先においてどのような項目が必要であるかの質問を行った。回答としては「主体性」「実行力」「柔軟性」が特に多く、それ以外の差異も大きかった。この結果は前年度実施した結果から変化していない。また業種別にも大きな特徴はみられず、全体的にその傾向があったと判断できる。また全回答数の 1 割に満たなかった項目は「計画力」「発信力」「働きかけ力」「ストレス耐性」であるが、「働きかけ力」と「ストレス耐性」は、前年度調査では比較的選択した企業・事業所が多かったものの、今年度は一気に減少した。当該質問においては、本学「KUIS 学修ベンチマーク」が 2018 年に改訂され、今回の調査対象となった卒業生(2015 年度)の在籍時とは項目が異なっていることから、広く社会で認知されている「社会人基礎力」の項目を用いているが、この結果を共有し、今後「KUIS 学修ベンチマーク」等、教育指標の見直しの材料としたい。

卒業生(2015年度卒)_追跡アンケート①_悩み(回答数33)

	勤務地	給与	残業・休日	人間関係	将来性	仕事内容	評価が低い	雇用の不安定さ	ノルマ・難易度	その他
教育学部 英語教育学科										
その他										
企業										
教員										
公務員										
専門他										
教育学部 教育福祉学科 こども学専攻	1	6	8	6		5		1		3
その他										1
企業		1	1							
教員		4	3	4		2		1		1
公務員										
専門他										
福祉						1				
保育			3	2		1				1
幼稚園	1	1	1			1				
教育学部 教育福祉学科 福祉学専攻		1	1		1					
企業										
教員										
専門他										
福祉		1	1		1					
人間科学部 経営学科									1	
その他										
企業									1	
公務員										
専門他										
人間科学部 人間心理学科	2	5	6	5	1		1	2	3	5
その他	1									1
企業	1	5	6	5	1		1	2	3	4
教員										
公務員										
専門他										
大学院										
福祉										
総計	3	12	15	11	2	5	1	3	4	8

卒業生①_現在の勤務先での悩みについて

就職後 3 年が経過し、勤務先でどのような悩みを持っているかについて質問を行った。前年に引き続き、学部を問わず「残業・休日」と回答した卒業生が最も多く、次いで「給与」「人間関係」などの回答が多かった。いわゆる「働き方」や待遇面についての回答が多い傾向にあり、特に教員として従事している卒業生は勤務時間に関する悩みが多いことが明らかとなった。他方、前年に多かった「将来性」を選択した卒業生はかなり減少した。また、自らの「評価が低い」と答えた卒業生は 2 年連続で最も少なく、入社・入職後 3 年の時点では、昇格などの評価についてまだ身近な問題とは捉えていないことが原因と推測される。

	密接につながっている	繋がっている部分もある	ほとんど繋がっていない	全く繋がっていない
**本学···································			4	
教育学部 英語教育学科 その他			<u>1</u>	
企業				
教員				
公務員				
専門他				
教育学部 教育福祉学科 こども学専攻	8	7		1
その他	1	,		
企業	1			
教員	3	2		1
公務員				
専門他				
福祉	1			
保育	2	3		
幼稚園		2		
教育学部 教育福祉学科 福祉学専攻	2	1		
企業				
教員				
専門他				
福祉	2	1		
人間科学部 経営学科				
その他				
企業				
公務員				
専門他				
人間科学部 人間心理学科	3	6	2	2
その他		2		
企業	3	4	2	2
教員				
公務員				
専門他				
大学院				
福祉			_	
総計	13	14	3	3

卒業生②大学時代に学んだ専門教育は、現在の業務と繋がっているか

大学で学んだ専門教育と、就業先での業務との関係について質問した。大学全体としては、「密接に繋がっている」「繋がっている部分もある」という回答が圧倒的に多かった。また就職カテゴリー別に結果をみた場合も、教員や保育・福祉現場に従事する卒業生と同様、企業に就職した卒業生が一定数「密接につながっている」と回答している。これは、前年度実施分から改善している点であり、企業就職においても専門教育との繋がりを実感できたのは、学生の方向付けとマッチングが改善した結果であると考えられる。今後も、目的養成系ではない学部学科に所属する在学生に対し、更に社会との関連性を意識させる課題やテーマを設定するなどの改善を求めたいと考える。

卒業生(2015年度卒) 追跡アンケート③ 大学時代の経験で役立っていること(回答数33)

行ラベル	難しい授業を理解しようと努力	素晴らしい授業に出会えた	難しい課題にチャレンジした	卒論を仕上げた	先生からの直接指導	尊敬できる先生に出会えた	学内イベント発表会	クラブ・サー クル	クラブ・サークルの運営	学園 祭運 営	学内での人間関係	アルバイトでの人間関係	就職活動	海外留学	IS	GS	S L	実習	その他
教育学部 英語教育学科						1										1			1
その他						1										1			1
企業	<u> </u>																		
教員																			
公務員																			
専門他	4	-	4		-	_			-	_	-	_			_	_		10	_
教育学部 教育福祉学科 こども学専攻 その他	1	1	1		5	9		2	1	2	7 1	6			1	1		10	2
企業					1	<u> </u>					1	1				<u> </u>			_
		1	1		2	5		1	1		4	3				1		3	1
公務員			_			1		'			7	3						1	1
専門他																		•	\dashv
福祉						1				1						1			
保育	1				2			1		1	1	1			1			4	
幼稚園						1						1						2	
教育学部 教育福祉学科 福祉学専攻	1	1	1	1		1					1					1		2	
企業																			
教員																			
専門他																			
福祉	1	1	1	1		1					1					1		2	
人間科学部 経営学科																			
その他																			
企業																			
公務員																			
専門他																			
人間科学部 人間心理学科	1	2	3		5	2		5	3		5	5	2	1	1	3		1	
その他	1		1		2										1				
企業	ļ	1	2		3	2		5	3		5	5	2	1		3		1	
教員																			
公務員	-																		
専門他	}																		
大学院 福祉																			\dashv
	2	-		4	1.0	10		7	A	•	10	11	-	-	-	0		10	_
総計	3	4	5	1	10	13		7	4	2	13	11	2	1	2	8		13	3

卒業生③_大学時代の経験で現在役立っていること

大学時代の体験や経験がどのように社会に繋がっているかを問うたものであるが、どの学部学科に所属していたかで大きな差異がみられた。教育福祉学科こども学専攻や人間心理学科においては「実習」や「尊敬できる先生に出会えた」など「先生」の存在を挙げた卒業生が最も多かった。他方、「アルバイトでの人間関係」との回答が多かったことは大学として残念である。「難しい授業を理解しようと努力した」「素晴らしい授業に出会えた」「卒論を仕上げた」など「授業」に関する回答については一定数あったが、前年より減少しており、PDを通じて情報共有と、提供された専門教育の質を向上させる取り組みを加速させたい。また、「IS:インターンシップ」「SL:サービスラーニング」などについて役立ったと考えている卒業生が少なく、学内での専門教育との関連、提供内容、経験からの意味づけなどについて、改善や更なる充実に取り組むことの必要性を感じさせる結果となった。

卒業生④ 大学時代にしておいたほうがよかったこと(自由記入)

- 教育現場での経験をもっとしておけばよかった。(学習支援等のバイト等)
- やりたいと思ったことにはなんでも挑戦すればよかったと感じている。
- ・転職の際に最終的に資格が就職活動を左右させた。資格をもっと取っておけばよかった
- ・全ての授業を自分の為だと思い、大切にすること。 興味のあることを全力でやってみる
- ・他大学の学生と、在学中にもっと関わっておくべき
- ・たくさん本を読むこと。図書館で専門書を読んでおくこと。
- ・社会人になった後で留学したので、学生時代に留学しておけばと思う
- ・インターンシップに行って多くの企業や業界を知っておくこと
- ・早い段階からの公務員試験対策
- 経営、経済についてもう少し掘り下げて勉強しておけば良かった。
- ・より多くの友人を作ることと、しっかりと遊ぶこと

卒業生⑤ 就職活動に取り組む後輩へのメッセージ(自由記入)

- ・面接では自分らしく丁寧にアピールしてほしい
- ・後悔しないように少しでも興味や関心があるなら納得がいくまで追いかけるべき
- ・就職活動は入社後の人間関係を想像してみることも大事だと思う。
- ・色んな就職先がある。たくさん見て悩んで自分合ったところを見つけてほしい。
- ・就活で経験してきたことが人間として力量や価値観を広げてくれたことを実感
- ・今勉強していることは、必ずどこかで役に立つ。どんどん知識を増やしてほしい
- ・1 人で不安になったら、友人、家族、先生、誰でもよいので他人の意見を聞いてみる
- ・学ぼうとする姿勢、意欲をもつこと。謙虚であることを心してほしい
- あきらめず頑張ってほしい
- ・最後は「縁」の問題なので、まずは目指す方向や軸を明確にしてほしい
- ・就活に対する姿勢=仕事に対する姿勢になる。自分や仕事に向き合う時間にしてほしい
- ・将来を見据えて、得意なものを伸ばして不得意なものを克服してほしい。
- ・女性目線だが、産前産後休暇、育児休業など福利厚生の充実は確認しておくこと
- 妥協しないこと!自分の夢をかなえるために!!
- ・何の為に働くのか、何を企業に求めるのかを考えることが大切